

# 委託事業実施内容報告書

## 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名 静岡文化芸術大学

---

#### 1. 事業の趣旨・目的

##### 1) 対象を区別した日本語教育

この事業では、「経済のグローバル化が進展する中で、日本国内の定住外国人が増加しており、これらの人々が地域社会の中で孤立することなく生活していくために必要な日本語能力を習得」するというのが目的とされている。

「生活者としての外国人」は誰なのかを考えた時、それは地域に住む外国人となる。地域に住む外国人とはと考えた時、大人、子ども、労働者、生活者というように、種々の層であることがわかる。これらの異なる対象を区別し、それぞれにあった日本語教育の在り方を探った。

##### 2) 家族ぐるみで日本語教室に訪れてもらい、それぞれの学習者に対して、目的にあった日本語指導を提唱する、その実施方法とノウハウを学ぶ

「生活者として」ということを考えた時、日本語を学ぶ学習者（生活者）を個で捉えていては真の支援とはならない。少なくとも、一家庭、一家族を対象とすることで、地域に参加するモチベーションや自覚が生まれてくるのではないのか。我々はこの事業で外国人児童を中心とした繋がりということを考えてみた。「地域で子どもを育てる、育む」という発想がある。そして、子どもを中心にと考えた理由には、子どもを大切に思う親とも必ず繋がってくるし、子どもたちへの支援は地域との繋がりへと発展するし、さらに、多文化社会の礎となる人材の育成にもなってくるからである。

##### 3) 日本語指導員の育成（ブラジル人指導員含む）

浜松には NPO をはじめ多くの方達が日本語教育に携わる。日本語指導の形も多種多様である。また、支援地域も広範囲に亘っている。しかし、各方面、各地域で活動している人たちが一堂に会する機会は少ない。さらには、日本語母語話者以外の日本語指導員が母語話者と意見を交わす機会も少ない。ここに一石を投じたい。

## 2. 運営委員会の開催について

### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月13日	静岡文化芸術大学 南711教室	池上重弘 澤田直子 中島イルマ 広瀬英史 堀永乃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業（プロジェクト）の趣旨説明</li> <li>・シンポジウムやセミナーの日程と対象者</li> <li>・広報の仕方</li> <li>・市教諭の方達への報酬</li> </ul>	<p>日程：9月12月2月頃            広報：SUACのWEB、ブログ、プレスリリース、運営委員が関わっている団体のビラに掲載            対象者：それぞれのシンポジウム・セミナーで対象を明確にする            市教諭の報酬：パネリスト報酬は払えない、交通費のみ            ※ひと月に2回はできないので、1日（午前・午後）を使い、シンポジウム・セミナーを行う。</p>
7月27日	静岡文化芸術大学 南711教室	池上重弘 澤田直子 中島イルマ 広瀬英史 堀永乃	セミナーの具体的な日程、対象者、内容、パネリスト案を決定する	<p>（1）講演（地域の取組）＋ワークショップ            時期案：10月15日（土）            参加対象者：広く募集（日本語教師、区市職員）</p> <p>（2）講演（小学校の現場から）＋ワークショップ            時期案：12月17日            参加対象者：市教諭、リタイア教員、教員採用試験に受かった新卒、若手教員、学校支援に当たっている人</p> <p>（3）子どもの日本語支援：早稲田バンドスケールシステム            時期案：2月            参加対象者：外国人児童担当市教諭、加配教員、通訳が中心</p>
2月9日	静岡文化芸術大学 南711教室	池上重弘 澤田直子 中島イルマ 広瀬英史 堀永乃	・第3回のセミナー／ワークショップの内容変更の経緯を報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今事業の評価（一部）</li> </ul> <p>シンポジウム・セミナー／ワークショップに関する満足度が高かったこと</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の委託事業を終えて</li> <li>・ これからの課題</li> <li>・ 今後の展開について</li> </ul>	<p>シンポジウム・セミナーの形式が良かった</p> <p>男性参加者が目立った</p> <p>行政の方の参加が目立った等</p> <p>・ その他</p> <p>今後、suac がどのようなことをするのか説明した</p>
--	--	--	---	---

※なお、10月10日、12月17日のシンポジウム・セミナーの後にも、運営委員と1時間程度のミーティングを行った。内容は反省会と次回のシンポジウム・セミナーの方向性の確認である。

### 3. 養成講座の内容について

#### (1) 講座名

第1回 「地域型」日本語教育の在り方を探る

第2回 外国人児童の笑顔のために

—学校がすること、担任・担当ができること—

第3回 外国人学習者の未来への歩みにむけて

—外国人児童生徒、労働者、生活者の指導体制や研修制度から学ぶ—

#### (2) 開催場所

静岡文化芸術大学

#### (3) 学習目標

第1回 『地域型』日本語教育にあった新しいタイプの日本語教師の育成

第2回 外国人支援体制、教室運営、授業の工夫、学校ボランティアによる小学校支援の在り方を考える

また、小学校教育における異文化理解教育、外国人児童の可能性を引き出し成長させる教育について考える

第3回 日本語力 (proficiency) 測定、測定方法、測定後の指導を学ぶ

また、指導体制や研修制度から日本語教育支援体制を考える

#### (4) 使用した教材・リソース

講師が作成した資料

(5) 受講者の募集方法

SUAC の WEB (<http://www.suac.ac.jp/index.html>)

池上重弘 HP (<http://wwwt.suac.ac.jp/~ikegami>)

静岡新聞

HICE ニュース

運営委員が関わっているメーリングリスト

※メーリングリストによる広報が効果的であることがわかった

(6) 受講者の総数 85 人 (1 回目、3 回目)、2 回目は 52 名

(出身・国籍別内訳 確認できる日系人が 7 名、他は日本)

(7) 開催時間数 (回数) 13 時間 45 分 (セミナー 3 回 (全 8 回講義))

(8) 参加対象者の要件

第 1 回 (10/10)

日本語教師、区市職員

第 2 回 (12/17)

市教諭、リタイア教員、教員採用試験に受かった新卒、若手教員、学校支援に当たっている人

第 3 回 (2/4)

- ① 県や市の職員
- ② 外国人児童生徒に関わる方
- ③ 地域の外国人支援に関わる方

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	2011 年 10 月 10 日 (月・祝) 10 時～12 時 30 分	2.5 時 間	72 人	〔講座名〕 「地域型」日本語教育の在り方を探る 〔内容〕 言語習得環境、学習者のニーズ、また、地域のニーズなどから、日本語教育の現場はより一層の多様化、細分化がすすんでいます。こ	

				<p>のような現状から、本シンポジウムは、『地域型』日本語教育にあった新しいタイプの日本語教師の育成を目指して行われます。静岡、愛知、岐阜の活動や取り組みを参考にし、『地域型』日本語教育の道を模索します。</p> <p>岐阜県可児市の取り組み</p> <p>愛知県豊田市の取り組み</p> <p>愛知教育大学の取り組み</p> <p>静岡県東部の取り組み</p> <p>浜松市の取り組み</p>	<p>可児市国際交流協会 各務真弓</p> <p>とよた日本語学習支援システム コーディネーター 土井佳彦</p> <p>愛知教育大学准教授 上田 崇仁</p> <p>静岡県国際交流協会 古橋哉子</p> <p>浜松国際交流協会 堀永乃</p>
② ③	2011年10月 10日(月・祝) 13時30分～ 16時	2.5時間	31人	<p>45分の講座×2回 総合討論1時間</p> <p>岐阜県可児市の取り組み</p> <p>愛知県豊田市の取り組み</p> <p>愛知教育大学の取り組み</p> <p>静岡県東部の取り組み</p> <p>浜松市の取り組み</p>	<p>可児市国際交流協会 各務真弓</p> <p>とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター 土井佳彦</p> <p>愛知教育大学准教授 上田 崇仁</p> <p>静岡県国際交流協会 古橋哉子</p> <p>浜松国際交流協会 堀永乃</p>
④	2011年12月	1.5時	67人	[講座名]	

	<p>17日(土) 13時~14時 30分</p>	<p>間</p>	<p>外国人児童の笑顔のために        ー学校がすること、担任・担当がすることー</p> <p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における、外国人支援体制・教室運営・授業の工夫などの報告と、ノウハウの共有</li> <li>・学校ボランティアによる小学校支援の在り方を考える</li> <li>・外国人児童の支援で抱える課題を共有し、その解決法を考える</li> <li>・小学校教育における異文化理解教育、外国人児童の可能性を引き出し成長させる教育など、新たな教育の扉を開く道を模索する</li> </ul>	<p>岐阜県美濃加茂市 古井小学校外国人児童教育の試み 古井小学校教諭 安田美喜子</p> <p>愛知県豊田市 西保見小学校外国人児童教育の試み 衣丘小学校教諭 澁谷光之</p> <p>静岡県浜松市 瑞穂小学校外国人児童教育の試み 瑞穂小学校教諭 近田由紀子</p> <p>静岡県浜松市 南の星小学校外国人児童教育の試み 南の星小学校教諭 鍋田弘美</p> <p>静岡県浜松市 佐鳴台小学校外国人児童教育の試み 佐鳴台小学校教諭 櫻井敬子</p>
--	---------------------------	----------	---	---

⑤	2011年12月	2.5時間	52人	40分の講座×2回	
⑥	17日(土)			総合討論1時間	
	14時30分～				
	17時				
				岐阜県美濃加茂市 古井小学校外国人児童教育の試み	古井小学校教諭 安田美喜子
				愛知県豊田市 西保見小学校外国人児童教育の試み	衣丘小学校教諭 澁谷光之
				静岡県浜松市 瑞穂小学校外国人児童教育の試み	瑞穂小学校教諭 近田由紀子
				静岡県浜松市 南の星小学校外国人児童教育の試み	南の星小学校教諭 鍋田弘美
				静岡県浜松市 佐鳴台小学校外国人児童教育の試み	佐鳴台小学校教諭 櫻井敬子

⑦	2012年2月4日(土) 10時~12時 45分	2時間 45分	85人	<p>〔講座名〕 外国人学習者の未来への歩みにむけて—外国人児童生徒、労働者、生活者の指導体制や研修制度から学ぶ—</p> <p>〔内容〕 日本語力 (proficiency) 測定として、とよた日本語学習支援システム「とよた日本語能力判定試験」、鈴鹿市教育委員会「JSLバンドスケール」、「OPI」について学ぶ。</p> <p>外国人児童生徒の学力保障をめざす「鈴鹿市日本語教育支援システム」の構築—JSL バンドスケールの活用から確かな学力の定着を目指して—</p> <p>集住地域における日本語支援体制とその可能性—とよた日本語能力判定から就労外国人の支援をめざして—</p> <p>散地域における「外国人住民」に対する日本語支援体制構築の課題と可能性—OPI の枠組みを活用した縦断調査から地域社会への参加を目指して—</p>	<p>鈴鹿市教育委員会課長 篠原政也</p> <p>名古屋大学とよた日本語学習支援システム 北村祐人</p> <p>国立国語研究所准教授 野山広</p>
---	--------------------------------	------------	-----	---	--



⑧	2012年2月4日(土) 14時～16時	2時間	55人	<p>1部 日本語力 (proficiency) 測定の具体的なやり方を学ぶ 日本語力 (proficiency) 測定をどのように行うのか具体的なやり方について学び、実践に活かす。(1時間)</p> <p>2部 日本語力 (proficiency) 測定から日本語 (教科) 指導へ 学習者の日本語力 (proficiency) 測定後、どのように計画 (Plan) をたて実行 (Do) に移すのか。 パネラーから具体的な例を示し話してもらうことで、実践に活かすノウハウを得る。(1時間)</p> <p>外国人児童生徒支援 (JSLバンドスケールの判定と活用に関して)</p> <p>労働者支援 (とよた日本語能力の判定と活用に関して)</p> <p>生活者支援 (OPI テストの活用に関して)</p>	<p>鈴鹿市教育委員会 杉谷直美</p> <p>名古屋大学とよた日本語学習支援システム 北村祐人</p> <p>国立国語研究所准教授 野山広</p>
---	-------------------------	-----	-----	--	--

## (10) 講座の評価

### ① 受講生に対するアンケート

#### 10月10日セミナー

午後のセミナーは今後の活動に役立ちましたか

	度数	パーセント
大変役に立った	2	25.0
役に立った	4	50.0
どちらでもない	1	12.5
あまり役に立たなかった	0	0.0
全く役に立たなかった	0	0.0
無回答	1	12.5
N	8	100

このようなセミナーが継続的にあった方が良いと思いますか

	度数	パーセント
とても必要だと思う	2	25.0
必要だと思う	5	62.5
どちらでもない	1	12.5
あまり必要ではないと思う	0	0.0
全く必要ではないと思う	0	0.0
N	8	100

#### 12月17日セミナー

「各小学校外国人児童教育の試み」報告について

	度数	パーセント
大変参考になった	27	73.0
まあまあ参考になった	5	13.5
普通	2	5.4
あまり参考にならなかった	0	0.0
全然参考にならなかった	0	0.0
無回答	3	8.1
N	37	100

グループディスカッション・ワークショップではどのグループに参加しましたか

	度数	パーセント
古井小学校(美濃加茂市)	12	32.4
西保見小学校(豊田市)	16	43.2
瑞穂小学校(浜松市)	14	37.8
南の星小学校(浜松市)	3	8.1
佐鳴台小学校(浜松市)	18	48.6
無回答	4	10.8

グループディスカッション・ワークショップは今後の活動に役立ちましたか

	度数	パーセント
大変役に立った	22	59.5
役に立った	10	27.0
どちらでもない	0	0.0
あまり役に立たなかった	0	0.0
全く役に立たなかった	0	0.0
無回答	5	13.5
N	37	100

このようなセミナーが継続的にあった方が良いと思いますか

	度数	パーセント
とても必要だと思う	21	56.8
必要だと思う	12	32.4
どちらでも	0	0.0
あまり必要ではないと思う	0	0.0
全く必要ではないと思う	0	0.0
無回答	4	10.8
N	37	100

## 2月4日セミナー

午後のセミナーではどのグループに参加しましたか	度数	パーセント
外国人児童生徒支援 (JSLバンドスケール)	23	47.9
労働者支援 (とよた日本語能力)	3	6.3
生活者支援 (OPIテスト)	9	18.8
無回答	15	31.3

午後のセミナーは今後の活動に役立ちましたか	度数	パーセント
大変役に立った	27	56.3
役に立った	6	12.5
どちらでもない	0	0.0
あまり役に立たなかった	0	0.0
全く役に立たなかった	0	0.0
無回答	15	31.3
N	48	100

このようなセミナーが継続的にあった方が良いと思いますか

	度数	パーセント
とても必要だと思う	28	58.3
必要だと思う	12	25.0
どちらでも	0	0.0
あまり必要ではないと思う	0	0.0
全く必要ではないと思う	0	0.0
無回答	8	16.7
N	48	100

### ② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・本事業は各方面、各地域で活動している人たちが一堂に会する機会となった。
- ・行政関係者、教員、学校関係者（支援員等）の参加も多かった。
- ・支援員等も3回目のセミナーに参加してくれた。
- ・このような企画を期待する人々が多かった（アンケートより）。

※ 以上は本事業がねらい通りの結果、成果を得た点であると言える。

以下、運営委員からの評価

- ・3回のシンポジウム・セミナーを通して、男性参加者が多かったというのが特徴的であった。教育支援のセミナーやシンポジウムで、男性参加者が多いというのは珍しい。
- ・教育研究機関としての大学に対する信頼性もあり、このような成果となった。
- ・本学がこれまでやってきた活動（地域の多文化共生に関わる協議会等への教員の関与や静岡文化芸術大学の特別研究によるシンポジウム等）の成果がこの集客に繋がった。
- ・テーマに関する概観的報告を聞いた上で、別会場に分散してワークショップを行いそれぞれの具体的な説明と質疑応答を経て、さらに各々のワークショップ結果を持ち寄って総合的に討論するという斬新な講座形式が良かった。実際に、参加者の満足度の高さに繋がったのだと思う。

【全体での概観的報告→別会場に分散してのワークショップ→全体での総合討論】

④ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

1 外国人子ども教育フォーラム（仮称）設置

外国人児童生徒の学習支援に関して、市内の NPO や簿連ティア団体などが実務者レベルで課題を共有するための外国人子ども支援フォーラム（仮称）を設置  
月1で開催予定  
意見集約をし、行政や関係団体と協力し、外国人支援に必要な体制づくりを行っていく。

2 外国人児童の保護者やその教育に関わる外国人の人たちから意見を聞く

来年度はまず支援員や外国人児童生徒の保護者を集め、どのようなことを考え、何を求めるのかを自由に話してもらい討議会を行う。日本人の我々が耳を傾ける。ここから、ニーズを得て、実践へと繋げたい。

3 小学校の支援のシステム化

これも外国人子ども支援フォーラム（仮称）を通してやっていく  
外国人児童生徒（まずは外国人児童）がどこの学校で学んでも、同じように教育を受け、同じように成果が得られることを目指す

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

フォーラムの設置により、NPO や浜松市行政と連携することになる

② 研修後の人材活用

日本語教育に携わる人との繋がりができたという段階である

(12) 今後の課題

今回の事業を通して、点が線となってきた段階である。また、日本語教育に携わる人との繋がりができたという段階である。具体的なことはこれからである。

具体的な課題として以下の4点挙げる。

1) フォーラムの設置 意見交換の場、そして、それが実現可能な形で反映されるための場作り

2) 教育指導体制のシステム化 豊田市や鈴鹿市をはじめ、大きな成果を上げているところには魅力的なシステムが存在する

3) 進学支援 小学校だけでなく、中学への支援も必要である。特に、中学は高校進学という大きな課題がある

4) リソースルーム 愛知教育大学のようなリソースルームを望む声が聞こえる